

2017年7月11日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL17-33

絵画・写真・絵手紙コンテスト 「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」

第7回の受賞者7名を発表

～ 最優秀賞は梅田美智子さん(広島県)、砂原涼志さん(大阪府)、塩田陽子さん(福島県)～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は2017年7月10日(月)、東京都内にて第7回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」絵画・写真・絵手紙コンテストの授賞式を開催し、絵画部門・写真部門・絵手紙部門あわせて95件の応募の中から、7名の受賞者を発表、表彰しました。



【受賞者、審査員、後援者、主催社による記念撮影】

第7回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」受賞者

【最優秀賞】

絵画部門: 梅田 美智子(うめだ みちこ)さん (広島県安芸郡府中町/61歳) 『美しく生きる』
写真部門: 砂原 涼志(すなはら りょうじ)さん (大阪府堺市/28歳) 『その先に』
絵手紙部門: 塩田 陽子(しおた ようこ)さん (福島県郡山市/52歳) 『ウインクしている わたしのおっばい』

【優秀賞】

絵画部門: 蔵野 由紀子(くらの ゆきこ)さん (熊本県熊本市/37歳) 『One day』
写真部門: 森井 邦生(もりい くに)さん (奈良県天理市/67歳) 『優しいまなざし』
絵手紙部門: 津田 恭子(つだ きょうこ)さん (岡山県岡山市/48歳) 『歩く』

【一般投票賞】

絵画部門: 蔵野 由紀子(くらの ゆきこ)さん ※「優秀賞」と同時受賞
写真部門: 須賀 研介(すが けんすけ)さん (北海道帯広市/24歳) 『母に見せたい景色』
絵手紙部門: 塩田 陽子(しおた ようこ)さん ※「最優秀賞」と同時受賞

受賞作品の画像・エッセイ(抜粋)をp3-4に掲載しております。画像データもご用意しております。

日本イーライリリーの執行役員でオンコロジー事業本部 本部長のアレクサンダー・ホーンは、次のように述べています。

「がんの患者さんや支援者の方々に、絵や写真を通じて想いを表現する場をご提供できれば、と始めたリリー・オンコロジー・オン・キャンパスは7回目を迎えました。今年から「絵手紙」部門を新設し、より多くの方にご参加いただけるようになったことは嬉しい限りです。本コンテストが、がんになっても自分らしく生きられる社会の実現の一助となり、同じ体験をされた方々に勇気を与えてくれることを願っています。弊社は今後も革新的な抗がん剤の開発に取り組むとともに、患者さんや支援者の皆さんの心に寄り添い、継続的なサポートを提供してまいります」

第7回の受賞作品は、今後全国の医療機関や疾患啓発イベント等で展示される予定です。

<第7回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」 募集・審査について>

募集期間：2016年8月1日～2017年1月31日

応募件数：絵画部門 33件 写真部門 42件 絵手紙部門 20件

募集テーマ：「がんと生きる、わたしの物語。」

審査：【最優秀賞、優秀賞、入選】

絵画・写真作品ならびに制作背景を綴ったエッセイについて、作品の技術的・芸術的な評価よりも募集テーマを的確にとらえた作品であるかを重視し、以下4名の審査員により2017年4月3日に行われ、最優秀賞、優秀賞、入選の計12点を決定しました。

【一般投票賞】

審査員により選出された作品12点を対象に、4月7日～6月4日の期間中、リリー・オンコロジー・オン・キャンパスのウェブサイトおよびFacebookにて一般投票を実施し、決定しました。

審査員：蓑 豊（兵庫県立美術館館長）、岸本 葉子（エッセイスト）、

東儀 光則（銅版画家）、平山 ジロウ（フォトグラファー） ※敬称略／順不同

賞：最優秀賞（各部門1名）、優秀賞（各部門1名）、一般投票賞（各部門1名）、入選（若干名）

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

【最優秀賞】 絵画部門

梅田 美智子 (うめだ みちこ) さん <広島県安芸郡府中町> 作品タイトル『美しく生きる』



■エッセイ(抜粋)

主人が亡くなって二人の娘と力を合わせて生きていこうと決心した矢先、今度は私に腫瘍が見つかったのです。すぐに手術しましたが、結果は悪性で、転移を繰り返す厄介なものでした。死の恐怖、手術の苦しさ、抗がん剤の辛さなどを考えると、絶望の淵に立っているようで辛くなる時があります。でも、人はいつかはこの世に別れを告げるのです。だとしたらこの鳥のように美しく生きて行こう。凜として静かにそしてたくましく。そんな思いをこの真白い孔雀や花々に込めて描きました。

【最優秀賞】 写真部門

砂原 涼志 (すなはら りょうじ) さん <大阪府堺市> 作品タイトル『その先に』



■エッセイ(抜粋)

19歳のとき健康診断で影が見えると言われました。検査を受け、血液の癌と告知されました。もう私に未来はないんだ、結婚はできないな、死ぬのかな、とっていました。完治して職場の先輩と付き合うようになりました。病気のことも伝えましたが「関係ない」とプロポーズも受け入れてくれました。今後何があろうとも必死に生き、彼女を追いかけて一緒に歩いていきたいと思います。あの時頑張ったから今がある、この先の未来があるんだと思います。

【最優秀賞／一般投票賞】 絵手紙部門

塩田 陽子 (しおた ようこ) さん <福島県郡山市> 作品タイトル『ウインクしている わたしのおっばい』



■エッセイ(抜粋)

私の左のおっばいは先に神様のもとへ行きました。手術から4年たちましたが、今でもちゃんと胸を見ることはできません。でも私のおっばいはウインクしているんだ！と思うと、愛嬌があって愛しく思えてくるのです。神様のもとで私を待っていてくれるおっばいに、いろんな体験やチャレンジを聞かせてあげたい。「あなたがいなくても、私は生き抜いたよ」と報告したい。私がおっばいと再会するときは、必ず笑顔でありたいと思っています。

【優秀賞／一般投票賞】 絵画部門

蔵野 由紀子(くらの ゆきこ)さん <熊本県熊本市> 作品タイトル『One day』

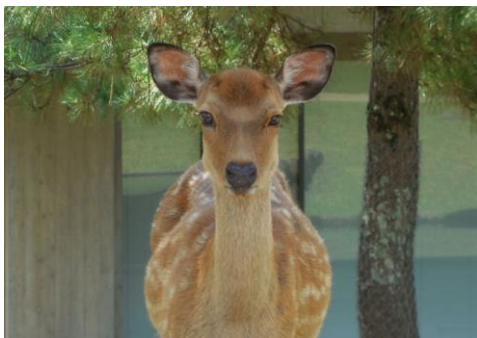


■エッセイ(抜粋)

舌癌、頸部リンパ節へ転移の疑いのあるステージ 4 と診断されたのは 35 歳のときのことであった。幼子二人を抱えて目の前は真っ暗になった。術後はまた辛い日々であった。そんなとき弟がくれた紙と鉛筆で絵を描き始めたら、急に頭が冴えてきた。花の命は短い。この絵の薔薇も既に枯れてしまってもうこの世には存在しない。しかし、それが不幸なこととは思わない。心明るく上を向いて、今にも咲こうとするこの蕾のような瑞々しさで生を全うしたいと願い、この絵を描いた。

【優秀賞】 写真部門

森井 邦生(もりい くにお)さん <奈良県天理市> 作品タイトル『優しいまなざし』



■エッセイ(抜粋)

数年前から肺気腫で治療中でした。検査で肺ガンの疑いと診断され切除。想像を絶する息苦しさでも、退院後は毎日カメラを持って歩き回りました。そんなある日、出あったのがこの鹿です。慈愛に満ちた気品ある優しいまなざしに息を飲み、思わずシャッターを切りました。以来この写真を持ち歩いて朝な夕なに眺め、大いに癒されました。副作用の中にあっても、この鹿がいつも優しく見つめていてくれました。

【優秀賞】 絵手紙部門

津田 恭子(つだ きょうこ)さん <岡山県岡山市> 作品タイトル『歩く』



■エッセイ(抜粋)

「もう新しい靴はいらんから」母が大腸がんと診断され、即刻、腹腔鏡手術を勧められた。そのショックや恐怖感は相当なものだったろう。お洒落大好きな母の目を引いた、店頭のパステルカラーのパンプスも、母の購買欲をそそらなかった。「もう靴を履いて歩くことはないし」とつぶやいた。術後 5 年目に入る母は、自分の身体と真摯に向かい合っている。希望を持って、明るく生きているのだ。「新しい靴を買いに行こうかな」と私に向かって笑いかける母に、笑顔で大きく頷いた。

【一般投票賞】 写真部門

須賀 研介(すが けんすけ)さん <北海道帯広市> 作品タイトル『母に見せたい景色』



■エッセイ(抜粋)

北海道の大学に進学した私がホームシックになった時、母が買ってくれたのが、カメラとの出会いでした。その年の暮れに母の乳癌が見つかりました。母は「研介の撮る景色をこの目で見たいから、元気になって北海道に行く」と言いました。私は、母の力になっていると思いたくて撮影に没頭しました。元気に回復し、今でも私の写真が生きる力になると話す母。私は今もこの 1 枚が誰かの力になればいいと願いながらシャッターを切っている。